



日時／平成27年11月9日(月) 14:00~15:30  
会場／ウェスティン名古屋キャッスル2F「青雲の間」

地域社会貢献活動講演会

## 池上彰のザ・ニュース ～ニュースから 世界を、日本を読む～

ジャーナリスト  
東京工業大学教授 池 上 彰 氏



### 取材して原稿を書く のが好き

私はNHKに記者として入社して32年間、現場で取材をして原稿を書く裏方の仕事をしていました。

私が表舞台に立つようになったのは昭和天皇がご病気で倒れられたとき、毎朝、宮内庁からの中継をしたときからです。

そして1994年から2005年までの11年間、NHK『週間子どもニュース』を担当しました。子どもたちから思いもよらない質問が飛び出したりして、まことにスリルとサスペンスに満ちた

番組でした。それに答える訓練をして、現在、テレビ番組などで芸能人に質問されても答えられるようになったと思います。

私は記者ですから、自由に海外に行き原稿を書いていたほうが楽しいと思い、2005年NHKを辞めました。そうしたら民放の方たちから、子どもニュースのようにニュースをやさしく解説してくださいということで、いまのような状況になりましたが、今も現場に行き取材をして原稿を書く仕事をしています。

### 情報伝達手段の発達が もたらしたもの

ヨーロッパに押し寄せる難民が夏以降急増と報道されていますが、これはスマホが普及したからです。難民で体力のある男性はEUの中はどこにでも行けますので、ドイツに行き難民申請するとアパートに入れて毎月4万円の生活費が支給され、半年経つと働き場所を斡旋してくれます。そうすると「ドイツは天国だ」という情報がスマホで拡散し、大勢がヨーロッパに押し寄せたのです。情報伝達手段が

新しくなることによって、人々の行動が大きく変化するのです。

過去の歴史でもメディアの変化によって人々の行動が大きく動いたことがあります。

ラジオが初めてできたとき、アメリカのラジオ番組が火星人襲来というドラマを放送し、アメリカ全土がパニックになりました。

第二次世界大戦のとき、ルーズベルト大統領はうまくラジオを利用しました。炉端談話です。ホワイトハウスの暖炉の傍らにラジオのマイクを置いてアメリカ国民に「团结する」ように語りかけ、これによってアメリカの人々は心をひとつにして戦争に邁進したのです。

やがてテレビが創られ、そのテレビをうまく利用したのがジョン・F・ケネディです。1960年のアメリカ大統領選挙で、公開討論会をテレビでも放送することになりました。ケネディ陣営はテレビの特性を知っていて、白黒画面に映える「紺のスーツ、白いワイシャツ、赤いネクタイ」を着用させ、ライトに煌々と照らされても汗が目立たないように化粧をさせました。ところがニクソンはグレーの





スーツで、汗を流して演説したので、討論の内容は良かったにも関わらず力が弱いイメージになってしまい、選挙結果はケネディが勝利しました。それ以降、紺のスーツに白のワイシャツ、赤いネクタイがアメリカの政治家の勝負服になりました。

### テレビ報道の怖さ

一方、テレビが意図せぬ結果をもたらしたものもあります。そのひとつがベトナム戦争です。アメリカは自由の国ですから、自由に報道させた結果、戦場の悲惨な光景が報じられ、こんな戦争は止めるべきだと戦争反対運動が盛り上がるなか、アメリカはベトナムから撤退せざるをえなくなりました。

アメリカ軍はこれに学び、湾岸戦争やイラク戦争のときは、ピンポイント攻撃で敵だけを正確に破壊している光景が報じられました。ウソではありませんが、戦争はきれいなものであるかのような、あるいはテレビゲームであるかのようなイメージが作られてしまったと思いま

す。アメリカ軍が情報操作をするようになったのです。

東西冷戦が終わるきっかけとなったベルリンの壁の崩壊のときは、テレビが思わぬ結果をもたらしました。東ドイツの人たちは自由に海外に行きたいと激しい抗議運動を起こし、結果的に東ドイツ政府はそれを認めざるを得なくなり、「これから海外に行きたい人は申請することができる」ように決めたのです。ところが広報担当者は、「外国に行きたい人はすぐに行けるようになる」と言い間違えて発表、記者が「それはいつから?」と聞いたら、「いますぐだ」と答えてしまったのです。それが東ドイツ国内でニュースになったのですが、東ベルリン市民は誰も行動しませんでした。ところが、しばらくして西ドイツで、このニュースが放送されたのです。とたんに東ベルリンの市民たちは夜突然、家から飛び出してベルリンの壁に殺到したのです。つまり東ドイツ国民は自国のテレビニュースを信用していなかったのですが、西ドイツのテレビニュースを観て、そこで外に飛び出してベルリンの壁に

殺到しました。何千人の大勢の人たちがベルリンの壁に押し寄せ、大勢の市民が壁を壊して乗り越える映像、歴史的な映像が世界中に流れました。

### どの宗教も受け入れる 寛容の心がある日本人

これまでドイツは景気が良かったから多くの難民を受け入れていましたが、フォルクスワーゲンの問題でドイツは大打撃です。来年以降、日本にも国際社会から難民を受け入れるよう圧力がかかってくることは間違いません。日本はどう対応するのか問われます。

多くの難民はイスラム教徒です。今世紀の中頃にはイスラム教徒が世界でもっと多くなるだろうと言われていますので、イスラム教についてお話ししたいと思います。

イスラム教もユダヤ教もキリスト教も一神教で、信じている神様は同じです。

日本人には信じられないかもしませんが、イスラム圏では、「宗教を信じていない」人は神を





も恐れぬ危険人物だと誤解されることがありますので知っておいてください。

イエスが生前語ったことをまとめた本が福音書です。その福音書のうち4つが正式なものとして残り、それが新約聖書と呼ばれています。イエスが神様に遣わされたことによって神様と新しい約束をしたのが新約聖書、それまでのものは旧約聖書です。

アメリカ大統領が演説するとき、新約聖書の一節をよく引用しますが、旧約聖書の一節を引用しますとキリスト教徒もユダヤ教徒も納得します。聖書のどの部分から引用するかで、政治的判断をしているということです。

6世紀にアラビア半島のメッカで、ムハンマドは天使ジブリールを通して神様の言葉を聞きます。ムハンマドは読み書きができませんでしたから、一生懸命に暗唱して伝えていき、それがイスラム教として広がっていきます。

ムハンマドは「神様の言葉を預かる人」「神様から選ばれた特別な人」という意味があります。またムハンマドから最も愛された女性の名前がアイーシャですので、この名前の人にはイスラム教徒だとわかります。国際交流の場などで、このような名前の人には「神様から選ばれた人ですね」「ムハンマドから最も愛された女性の名前ですね」と言うと喜ばれます。

キリスト教では、聖人のパウロ、ペテロ、ヨハネなどがよく名前につけられます。パウロはパウロです。ペテロはピーター、ヨハネはジョンです。

お笑い芸人のパックンの本名はパトリック・ハーランです。パトリックはアイルランドのカトリックの聖人の名前ですので、彼はアイルランド系で親は敬虔なカトリック信者だとわかります。

イスラム教徒にとって大切なコーランには守るべきことが書いてあります。例えば一日5回

お祈りをします。1年に1カ月間日の出から日の入りまで飲食できないラマダン(断食)があります。世の中には食べることができない貧しい人々のことを想うためと、世界中のイスラム教徒が同じ行為をすることによって連帯感が生まれる効果があると言われています。ラマダンのとき日没後みんなで集まって一緒に食事をすることをイフタールと言います。インドネシアとかマレーシアなどに工場や会社があったら、ラマダンの月はイフタールを振る舞うことによって、経営者の印象は良くなります。

いまハラル(許されているもの)ビジネスが注目されています。ハラルとは豚肉やアルコールが使われていなくてイスラム教徒の人でも食べてもいい食事です。イスラム教徒の人たちがこれから大勢日本にやってきますので、ハラルという認証を得るのは厳しいですが、大きなマーケットになっていくと思います。

世界では宗教の対立でいろいろなことが起こっていますが、どの宗教も尊重して大切にしている日本人の寛容の精神はグローバル社会の中でとても重要な役割を果たしていくと思います。

※ この記事は平成27年11月9日(月)の講演を要約したものです。  
文責:(一社)名古屋西法人会

